

在宅医療と介護の連携の取組状況について －多職種連携交流会の開催状況－

1 開催状況

(1) 日 時 令和2年1月21日(火) 15:00～17:00

(2) 場 所 東予地方局

(3) 参加者 75名

(所属別)

病院13名(8病院)、訪問看護ステーション4名(4か所)

居宅介護支援事業所43名(29事業所)

地域包括支援センター7名(新居浜市・西条市)

保健センター3名(新居浜市・西条市) 保健所5名

(職種別)

社会福祉士4名、看護師11名、介護支援専門員44名

精神保健福祉士3名、保健師13名

2 多職種連携交流会の内容

(1) 目 的

地域包括ケアシステムの構築を目指す取組の一環として、認知症支援に携わる関係者が集い、相互の役割を理解し合い、必要な連携のあり方について考えることで、多職種間のネットワーク強化を図ることを目的とする。

(2) テーマと目標

(テーマ) 「多職種で考え、関わる認知症の方への支援

～住み慣れた地域で生活していただくために～」

(交流会の目標)

- ① 認知症政策等取組の実際を知り、地域の強みや課題を考える
- ② 認知症患者への今までの関わりを振り返り、専門職としての役割を再考する
- ③ 関係機関の役割について理解し、人的ネットワークを拡げる

(3) 内容

①取組紹介

- ・行政における取組(代表して新居浜市が紹介)
- ・愛媛県認知症疾患医療センター(十全ユリノキ病院)の取組

②グループワーク(14グループに編成)

- ・自己紹介
- ・事例検討(設定したもの)あるいは、共通課題等テーマを自由に設定してのグループワークを実施

- ・事例検討を選択したグループは、相談受理後に各立場で行う初動対応の確認、相談後によりよいケアを行うための連携先の確認と互いの擦り合わせ、入院中にできること、更に一步踏み込むことで可能になることについて話し合った。
- ・自由テーマを選択したグループは、現状と課題、一步踏み込むことで可能となることと実現するための条件について話し合った。
- ・いずれの場合も、「一步踏み込む」がキーワードである。

④ 講演「認知症対策の動向と今後の支援の課題」

講師 愛媛大学医学系研究科看護学専攻地域健康システム看護学講座
地域看護専門看護師 吉田 美由紀

3 交流会の評価と今後について

(評価)

- 交流会終了後にアンケートによる評価を行った。(回収率は94.7%) 評価項目は、
 - ・学びを今後の多職種連携に活かすことができるかという活用度
 - ・専門職相互あるいは組織の役割の理解度
 - ・交流会内容の満足度
 - ・対象者の支援の役立ち度
 の4項目である。

全ての項目において9割以上の者が高い評価をしていた。

- 参加者が考えた「一步踏み込んでできること」をまとめると、
 - ・日頃からのつながりを大切にし、関係機関どうしが互いに信頼関係を築くこと。
 - ・関係機関との情報共有、連携だけでなく、地域の住民が介入してもらえようような支援を行い地域全体で見守りたい。といった意見があった。

(今後について)

- 地域包括ケアシステムの構築を考えていく場合、具体的なテーマを設定することで検討がしやすくなると言われている。様々な検討課題を設定しても多職種連携は今後も重要になると思われる。

なお、多職種の交流会や勉強会は、病院の地域連携室や地域包括支援センター、介護支援専門員協会など様々な団体で開催されており、今後、関係機関との調整や内容確認、また、表出した課題の共有等が必要である。

- 認知症の方の支援には、専門職だけの関わりではなく、地域全体がいかに対象者を見守ることができるかという仕組づくりが必要となってくる。これらをそれぞれの視点で考えていくこと自体が、包括ケアシステムの構築の一步になると思われる。